

地区復興まちづくり便りへの意見等

※すべて第 2 回検討会までにご紹介した意見であり、新たな意見はありません。

■検討会の進め方・メンバーについて

①	仮設住宅、赤前地区に住居を構えていない釜ヶ澤地区の元住人も役員に加えてほしいと思います。 (50 歳代 女性)
②	今回の街づくりは被災したので出来たと思います、自分の家には住めない被災者の住居地を優先して事を進めてください。 (80 歳代 男性)
③	地区をさらに何区域かに分け小地区での会合を開き代表者での意見をまとめる。 (50 歳代 男性)
④	少数派で弱い立場の人間の意見も平等に聞いて欲しい。 (30 歳代 男性)

■支援等について

①	・土地の買い取り価格を震災前の価格に近い価格で買い取りして欲しい。 ・土地を買い取りしてもらって自分で移転先を見つけても良いのか知りたい。 ・生活再建支援の期間を延長して欲しい。 ・住宅ローン（二重ローン）の利子補助を 5 年間の期間を延長して欲しい。 (40 歳代 男性)
②	自立再建できるように行政の少しの後押しが必要です。たとえば、浸水域で全壊流失した跡地の買い上です。それを元金に個人で宮古市内に希望の土地を購入し、地元の建築業者による自宅の再建に着工できます。早急に、自立再建できる被災者を後押ししてのち、公営住宅希望、高台の一戸建て希望と、実数を正確に把握することで高台移転の予算が縮小できると思います。仮設住まいの多くの方は、一日も早く、仮設住宅から退去して我が家の再建にとりかかりたいと思っています。 (70 歳代 男性)
③	古い家に住む、買う人間への補修費など手厚くして欲しい。 (30 歳代 男性)
④	二度と津波による悪夢を味わうことが無いようにするため、この地区を離れて老後のことも考慮し（交通の利便さ、働く場と病院、文化的な催事への関心等）宮古市を離れて市外へ転居したい気持ちもある。現在の所、こういう人達に関する情報（支援の方法）が見えてこない。自分の所持していた土地や建物が無くなるならば、より安全で確実な道を選ぶのは当然のことであろうと思うので、是非こういった考えを持っている人への情報も欲しい。 (60 歳代 男性)
⑤	新しい都市計画もいいですが、私達には、時間がありません。きっと、あと 4～5 年もするともう新しい赤前の姿は、見られない所に旅立ちます。100 年以上も住み続けた先祖伝来の土地であっても、もはや全壊流失して、家の基礎すら不明です。 私達年寄りには、何にもなくなった土地は、役所に買い取ってもらって、小さいながらも人生の終末を迎える自分の家が欲しいです。 流失家屋の跡地を買上げて下さい。老いの蓄えと土地代で、自分の家を再建したいのです。 このまま、仮設住宅で成り行きを観ているのは辛いです。津波の前のにぎやかだった様子が思い出されて、涙する毎日です。 狭い空間に閉じこもった生活は、とてもつらく気が狂いそうです。 お願いします。誰に言ったらいいのでしょうか。 (匿名)

■移転について

①	・高台移転の場合、他の地区に移転したい場合の事も考えて欲しい（海の近くはもういい ちょっと他の地区が良い） (40 歳代 男性)
②	赤前地区の移転候補地の一つである宮古工業高校の裏山に赤前保育園位の高さに敷地を作れば津波、山津波（土石流・洪水）の心配もなく安全安心の場所になると思います。 (80 歳代 男性)
③	当赤前地区は海拔の地帯で何度となく津波被害を受けている事から、A 案の高台移転が将来上いいと思います。赤前小学校中心とした移転地 A 案が望ましいと思います。(70 歳代 男性)
④	どうしても高台移転なら旧開墾地（東南の山で昔の畑地）はどうだろうか？ (60 歳代 男性)

■道路について

①	現在の稲荷橋から一力屋間の県道を東北資材容器跡から入る市道を嵩上げ、二車線化（ヒロセ電機への通勤、トラック等の往来が多く児童を巻き添えにした事故も数件発生している）にし一力屋までつなげる県道にする。その事によりバスの便も仮設にいる人、地域の人、工業生徒らにも便がいいと思います。 (50 歳代 男性)
②	赤前は昔から海を中心に栄えてきた地区で半農半漁の集落でありました。最近海と会社関係とくに東北ヒロセ電機を中心とした企業が多くなり今後は通勤等の関係から避難道路の整備が早急の対策と思われます。駒形橋～藤畑～赤前～堀内～重茂道路の見直し検討が必要かと思っています。 (70 歳代 男性)
③	・早期の藤畑地区への防災道路の拡幅、赤前から白浜への防災道路の拡幅整備 ・赤前から駒形橋への市道の 2 車線化（歩道含） ・高台へ通じる市道、農道の整備（嵩上げ含） (50 歳代 男性)
④	イ）嵩上げた防波堤（10.4m）の頂上を乗り越えて→高台へと避難できる自動車道路を新設して下さい。 ロ）津波警報発令→防波堤の水門（非門戸）が閉鎖した後に、イ）の上記の道路を自動車が自由に越えて→高台へと避難する道路を作して下さい。 ハ）避難した高台へ座るものを設置して下さい。又、道路カーブを広げて下さい。 (70 歳代 男性)

■防潮堤・河川堤防等について

①	赤前地区で川に流して欲しいとありました。賛成です。ずっと考えていました。津軽石川、閉伊川と大きな川があるので、防潮堤（？）を川上までしっかりとつくり、川河の土砂等の整備をして津波の波を流すことで少しでも宅地などへの浸水を防げると思います。(40 歳代 女性)
②	白浜の防潮堤の高さはどの位嵩上げをされるのか？ 現在の高さに 2～3 メートル嵩上げすれば、3. 1 1 の津波クラスであれば大丈夫と思う。震災後に撮影した写真を見ると堤防の上部から約 2m 位の山懐に津波の高さを示す跡が写っている。（当時自分で撮影した）そして、シーサイドホテル海幸園が床上浸水レベルで済んでいる事、津波来襲時に避難しながら撮影した海幸園前の県道を津波による海水がさかのぼる量（高さ）

	の写真を見ても今より3メートル防潮堤が高ければ防げていたと思う。そうすると、防潮堤を3メートル嵩上げし、浸水した地域を海幸園レベルの高さに土地を嵩上げすれば、今の自分の土地に住めると思う。 (60 歳代 男性)
③	海拔15メートル以上の堤防を整備して欲しい。 (30 歳代 男性)

■エネルギー・産業等について

①	都市計画課の方々をご存知でしょうが、本州で随一、年間の日照時間が、長いのは宮古市です。この件については、10数年前に在住の高名な方が数年にわたり観測測定し、発表した確かなデータが存在します。私達の宮古市は、全国で一番晴天の日が多い誠にあっばれな土地柄です。宮古に住んでいると、当たり前と思ってきましたが実は、全国に誇れる特色があったのです。こんな恵まれた土地の利を活かさないのはもったいないことです。浸水跡地の活用に最適です。(ご検討を)加えて、太陽光設置住宅に対する宮古市の補助金のアップもかなり高い効果が期待できます。個人の使用する電力は、可能な限り個人が太陽光で賄うこと。震災を期に葛巻町に負けない、宮古市の特色を活かした災害に強く、環境にやさしい自然都市作りをしたいものです。宮古市の産業や雇用や活性化にも大きく貢献できそうです。 (70 歳代 男性)
②	この地区は、地元民が働ける加工場（海産物の加工）が必要と思う。それを軸にして海産物や地元で農業をしている人達の農作物を新鮮で安価に販売し、観光客を呼ぶようにする。そのためにも、唯一の観光地である月山のより一層の整備とPRが不可欠であるし、同時に赤前からの海岸道路の整備も更に行うことで地区住民に活気をもたらすことができるのではないのでしょうか。 (60 歳代 男性)

■河川・排水について

①	・駒形通地区からの排水路の整備 ・橋場川の朝日屋旅館付近の改修 (50 歳代 男性)
---	--

■施設について

①	・津軽石中学校の久保田山への移転 ・運動公園の工業高校付近への移転 (50 歳代 男性)
---	--